



新しい年度が始まり、3週間近く、新学年に進級した子供たちは、期待と不安を抱えながらも、日々頑張りをを見せています。スタート時に見られた緊張感も次第にやわらぎ、本来の姿を発揮できる環境に近づきました。そんな毎日の頑張りの中で、自分の成長に気付き、楽しく、学びのある学校生活を送ることができるよう声掛けしているところです。

来週からは、飛び石ではありますが、連休（ゴールデンウィーク）突入です。家族と多くの時間を過ごしたり、日頃体験できにくいことに向き合ったりすることで、多くの喜びと充実感を味わってほしいと願っています。

子ども読書の日

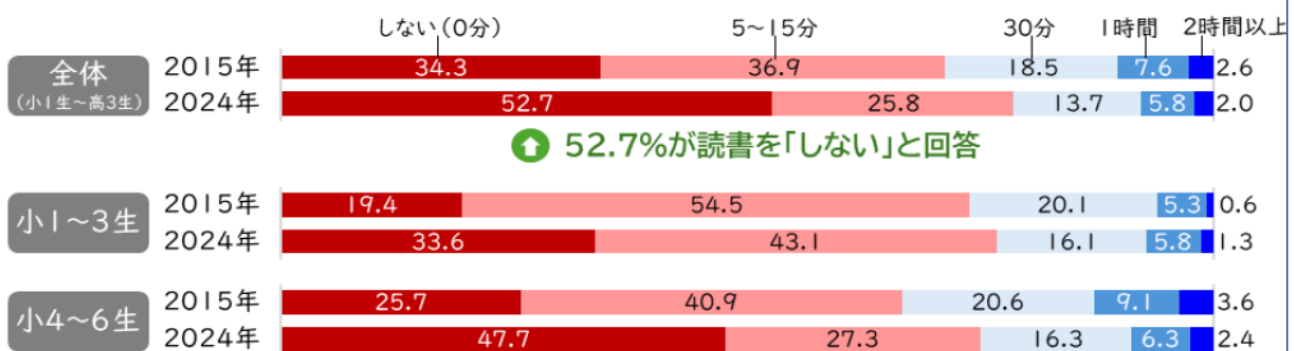


「読書」と言えば「秋」のイメージが強いものですが、実は、4月23日は「子ども読書の日」と定められています。また、4月23日から5月12日までの期間は「こども読書週間」となっています。これは、「読書」の大切さを広め、子供たちへ「読書活動」を勧めていくことを目的としています。

「物語は偶然の一冊からかじまった」をキャッチコピーとされている今年の「子ども読書の日」ですが、本は、貴重な情報源であるだけでなく、子供たちの世界を広げ、心を豊かにします。自分が経験していないことも、本の中で味わえます。また、これまで興味のなかった分野を面白く感じたり、多様なものの見方に気付いたりする機会にもなります。本を読みながら、言葉の使い方も学んでいます。そして、子供たちの将来を考えると、将来なりたい仕事を見付けるきっかけになるかもしれません。これから先の学習や社会に出たときの仕事上で必要な資料を読み進める能力も身に付けておいてほしいと思います。

さて、お子様の読書に関する興味・関心はいかがでしょうか。近年、子供たちの「読書離れ」がよく話題になっています（大人もかもしれませんが…）。下のグラフにある調査の結果では、『1日の中で読書をしない（0分）』という回答が52.7%であり、10年前（34.3%）と比較すると、1.5倍増加していることがわかります。

【図表 1-1】読書時間の変化（2015年、24年）



出典：株式会社ベネッセコーポレーション 広報部から2025年10月20日付で出されたもの

また、東京大学社会科学研究所と共同で実施している「子どもの生活と学びに関する親子調査」を中心とした調査結果から、子供たちの読書行動の実態やスマートフォンの利用との関係も出されていました。その結果は、スマートフォンの使用時間の増加に伴い、読書時間が減少しているという「スマホ時間と読書時間は逆相関関係がある」ということが分かったということです。そして、それは、語彙力・読解力に関連するということでした。

ゴールデンウィーク、様々な御予定があるとは思いますが、デジタルデトックスを行い、少しでも「家読（うちどく）」の時間を見付け、家族と一緒に本を楽しんでみてはいかがでしょうか。また、お出掛けの際には、書店にも立ち寄っていただいたり、御家族の愛読書を子供たちに紹介していただいたりするのもよいかもしれません。子供たちのよりよい成長と、明るい未来のために、様々な角度からの御協力をどうぞよろしくお願いします。

避難訓練を行いました

月曜日（20日）の夕方、青森県で最大震度5強を観測する地震が発生しました。津波も心配されていましたが、幸い、今のところ大きな被害は見られていません。そんな中、21日（火）に、今年度初めての避難訓練を行いました。

地震を想定し、その後火災発生という状況で行いましたが、1年生はもちろん、どの学年も、新しい教室場所では初めてということで、まずは、避難経路の確認です。

どの学年も、まずまずの取組でした。訓練後の話では、次の3点を伝えました。

- ①「いつも準備しておくこと」…災害は、いつ、どこで起きるかわからないからこそ、いつでも対応できるように「もしも」を想定してほしいと思っています。
- ②「放送や周囲の音をよく聞く」…日頃から、放送が鳴った時は活動をやめ、耳を澄ますことを徹底していきます。
- ③「練習は本番のように！本番は練習のように！」…いざというときに落ち着いて対応するためには、訓練（練習）こそ真剣にやる必要があります。



そして、『避難訓練は100点満点でなくてはいけない！』ということと『自分の命は自分で守る』ことを忘れずに、毎日安全に過ごしてほしいと願っています。ぜひ御家庭でも、もしもの時の備えとして、持ち出し品の確認や、避難場所、連絡手段など確認していただければと思います。



この時期に・・・（前回の続き）

前号で、**子供の成長は「足し算」で！**という記事を書かせていただきました。その中では、「当たり前でも褒めることで定着します」と書いたのですが、誤解が無いように続きを書かせていただきます。

褒めることの大切さは、誰しも理解しているところだと思います。とは言うものの「褒める」だけでは決して子供は育ちません。同時に「叱るべきときに叱る」ことも大切だと考えています。

○命や安全に関わるような場合

○社会や道徳のルールに反する場合

私は個人的に、褒めることのメリットよりも叱らないことのデメリットの方が大きいような思いをもっています。

ただ、「厳しく」「頭ごなしに」ということではありません。また、「他の人に迷惑をかけるからだめだ」という叱り方（指導）もあります。もちろん、自分の行為が他者にどのような影響を及ぼすかを理解させることは重要です。しかし、叱る指導をそのレベルだけに留めてしまえば、「それじゃ、他人に迷惑をかけなきゃいいじゃん」ということになってしまいます。そうならないためには、さらにもう一步踏み込む必要があると考え、私は、そのもう一步の踏み込みとして、子供たちに「自分自身の心の規準としてどうなのか」ということを問うことが必要なのではないかと考えています。

具体的に言うならば、子供に不適切な行為があった際、そのやった行為の意味、理非をはっきりさせた後、「本当にそういうことをする自分でいいの？」「あなたはそういうことをしても平気な人だったの？」と問うことです。そう問うことにより、その子自身の心の規準というものを意識させることができると思います。

子供たちはどの学年においても成長過程です。心の規準など、はっきりと形づくられてはおらず、あいまいな状態ではないでしょうか。もしかすると、心の規準ということ意識さえしていないかもしれません。したがって、上記のように問うことで、まずは子供たちに心の規準というものを意識させることが重要だと考えます。

これも、日常の生活の中での積み重ねだと思います。御協力よろしくお願いします。